

多面的機能支払交付金に係る研修会

# 地域の担い手の育て方

地域が元気であり続けるために  
私達にできること

平成30年11月20日

人・まち・住まい研究所 浅見雅之

# 少しだけ自己紹介

# 自己紹介

名前：浅見雅之（あさみまさゆき）

経歴：1968年埼玉県東松山市生まれ

埼玉県立熊谷高校卒

北海道大学工学部建築工学科卒

大学院修士課程修了

1994年 いるか設計集団（神戸）入社

1995年 東灘区深江で被災

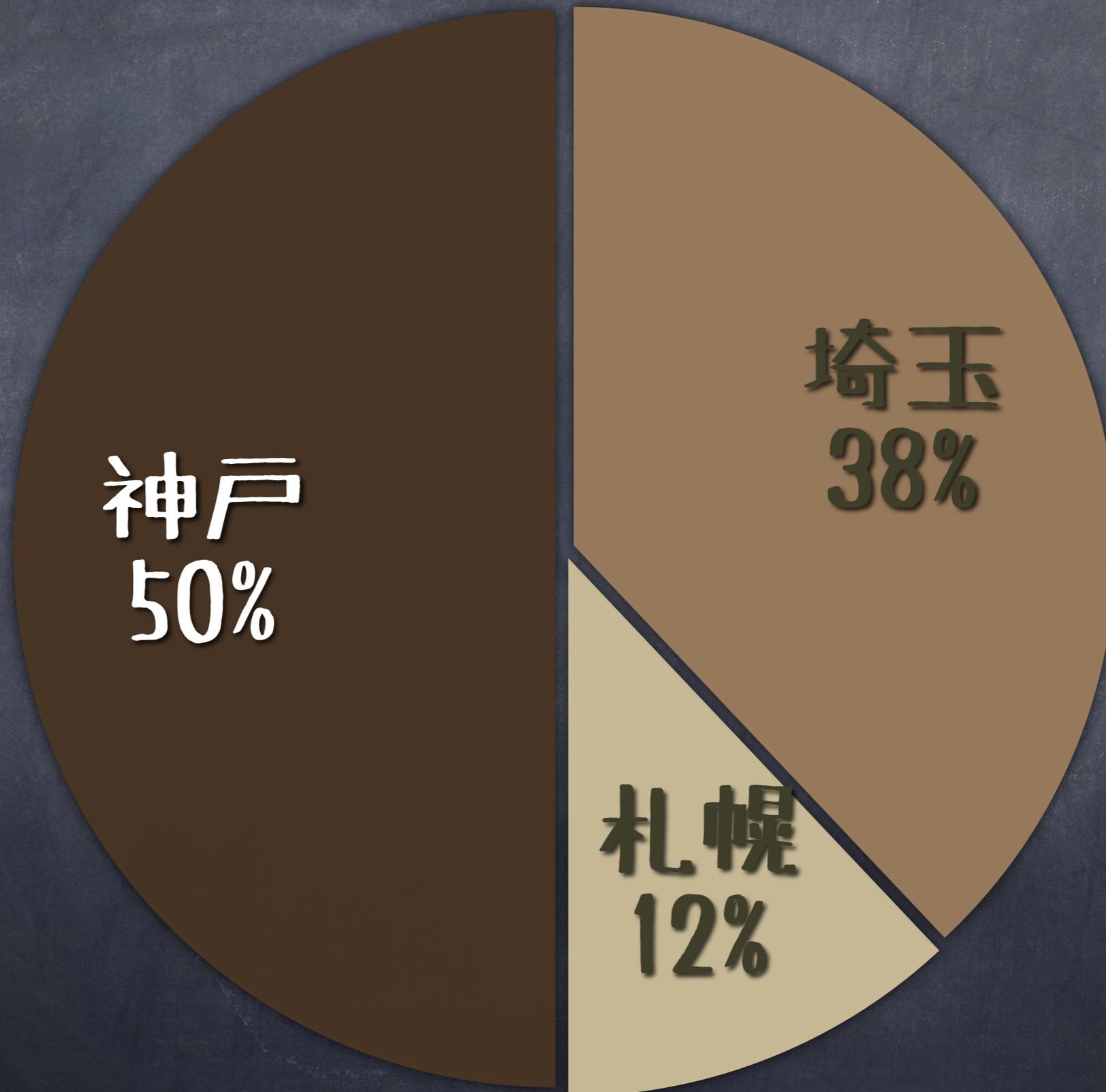
2001年～県・市のまちづくりアドバイザー

2008年～小規模集落元気アドバイザー

2009年 独立

「合同会社 人・まち・住まい研究所」設立

# あさみの成分表



# 自己紹介（その2）

資格・活動：一級建築士・兵庫県建築士会  
神戸まちづくりワークショップ研究会  
兵庫ヘリテージマネージャー  
東日本大震災復興まちづくり支援

得意分野：建築設計（住宅, 公共施設, リフォーム）  
工業製品等のデザイン  
多くの人々の合意形成サポート  
（コミュニケーションの潤滑剤）  
人の話を聞くこと  
聞き書き  
（ファシリテーション・グラフィック）

地域コーディネーター  
を名乗ってます

まちづくりコンサルタント  
と言われることも…

あまりコンサルタントと  
呼ばれるのは好きじゃない！

あんまり 提案したり  
導いてあげたりはしないので

みんなが、みんなで考え  
答えを出すための手伝いをする

その地域のことを  
一番知っているのは

ここに住む人に決まってる

だから...

皆で考えるための  
お手伝いはするけど…

最初から答えを  
提案したりしません

センセイでは  
ないのです

だから...

# 地域コ－ディネーター

集会所・施設の設計  
歴史的建物が保存  
地区景観づくり  
地区内のルールづくり  
中山間地の活性化  
マンション管理組合運営

得意なこと

# 多くの人達の合意形成

人がたくさんいると  
意見がたくさん出て  
なかなかモ/ゴトが  
決まらない！

だから

普通の人には嫌がります

たとえば...

ハウスメーカーは  
3世代住宅はやらない！  
と聞きます

でも、私の場合

人が多ければ多いほど  
楽しい

たくさんの人達が集まって

# 自分たちの地域の 将来について考え

何か方針を決めて  
地域を運営していく

それが「まちづくり」  
「地域づくり」

地域に関わって  
地元の意見調整に加わって  
意思決定に参加し  
地域を作り上げる

それは本来  
とてもクリエイティブで  
楽しいこと

でも、皆さんが  
それを楽しいにとだと  
教わって来なかったとしたら  
それはとても不幸なこと

だから  
それが楽しいということを知ってほしい

大事なことなのでもう一度

地域に関わって  
地元の意見調整に加わって  
意思決定に参加し  
地域を作り上げる

それは本来  
とてもクリエイティブで  
楽しいこと

今日の本題に  
入る前に

今日はおレジメしか  
お配りしていません

実は話が始まると  
分かるのですが...

スライドの量が膨大  
すぎるので…

皆さんにお配りすることが  
難しいのです

ただ、私の講演は  
完全著作権フリー  
なので…

講義資料が必要な方には  
全スライドのデータを  
無料でお渡ししています

講演データを使って

ご自分のお名前で

講演してくれてもOKです

データは事務局に  
お預けしておくので  
資料の必要の方は  
あとでご相談ください

限界集落って

聞いたことありますか？

もちろんご存知

ですよ

でも…

わかりと誤解している

人が多いので

説明しておきます

# 限界集落とは

共同の草刈  
神社の世話・盆踊り  
お祭りなど

- 集落全体の高齢化率が50%を超えている
- 少子高齢化・人口減少などにより、集落活動の維持ができなくなっている

1991年に社会学者大野晃（当時長野大教授）  
が提唱した概念

限界集落になると、いずれその集落は消滅する  
と捉えられている

日本中に、将来的には  
消滅しそうな集落が  
たくさんある

日本は人口減少の時代に  
突入している

今から約30年間は  
確実に人口が  
減り続ける

こんな状況で

田舎だけ

人口が増えるなんて

考えにくい

これから小さな地域が  
たくさん増えることになる

皆さんの地域も

ぜんぜん

他人事じゃない！

除雪とか

道路の整備とか

バラバラに住んでたら

非効率って話もある

病院や施設への  
送迎とか

行政からのお知らせ  
の配布とか

山になんか住まずに  
まちに集まって  
住めばいいじゃないか  
という意見もある

集落よんかなくして

まちに固まって住め

という意見を

どう思われますか？

確かに  
経済原理からいえば  
かなり合理的

でも

故郷がなくなるとは嫌

とか

私はここに住み続けたい

という人もいる

私には

その気持ちも分かる

っていいか

その気持の方が分かる

なんとかして

地域に住む皆さんが

住みたい場所で

幸せに暮らす方法は

ないだろうか？

実は、私たちは  
これをテーマに  
仕事をしています

さて...

だんだん本題です…

まずは

# 人口減少の話

もう分かってるよって  
言う人もいるけど…

私には、分かっている人が  
たくさんいると思えない！

なので、話します

日本は  
人口減少社会に  
突入しています

そう言われても  
あんまりピンと来ない！  
人はほせんか？

地域が40年後  
どうなるか……

本気で考えたことある？

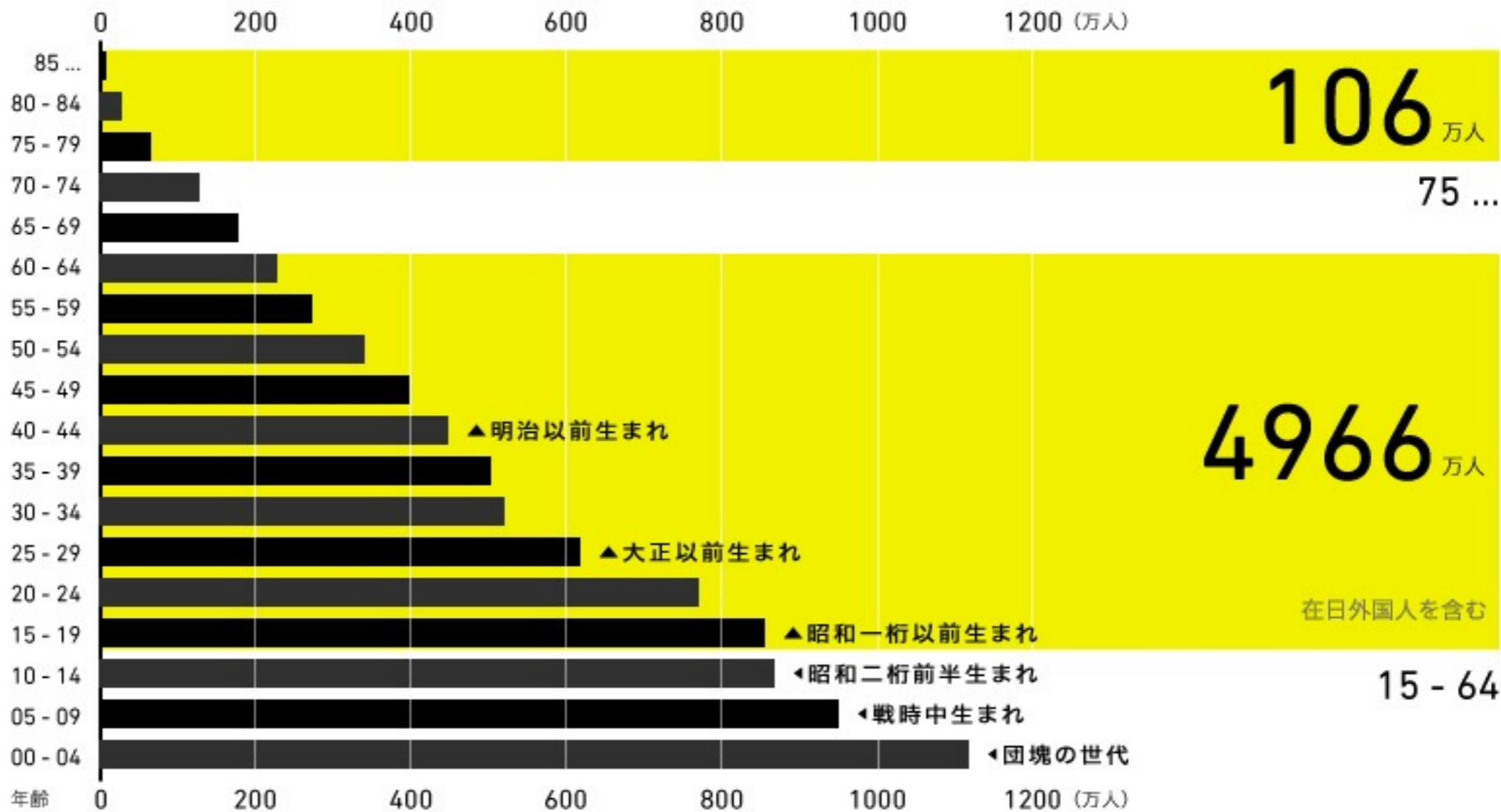
# 全国人口の推移予測

1950年～2050年

# 日本の人口推移

1950

戦後復興の頃

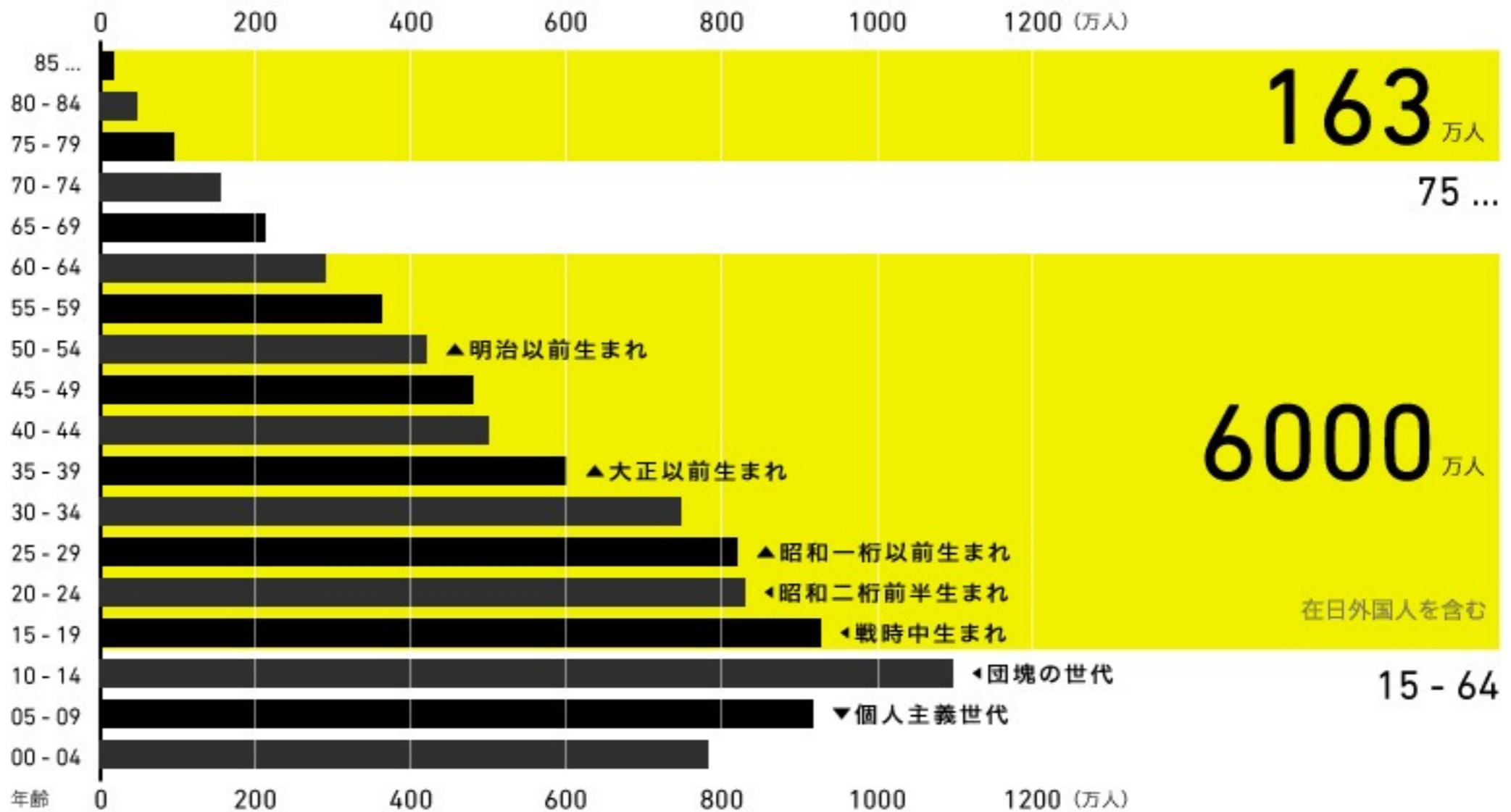


グラフデータ：ツタグラ 藤谷氏セッション資料  
出典：国勢調査

# 日本の人口推移

1960

所得倍増計画の頃

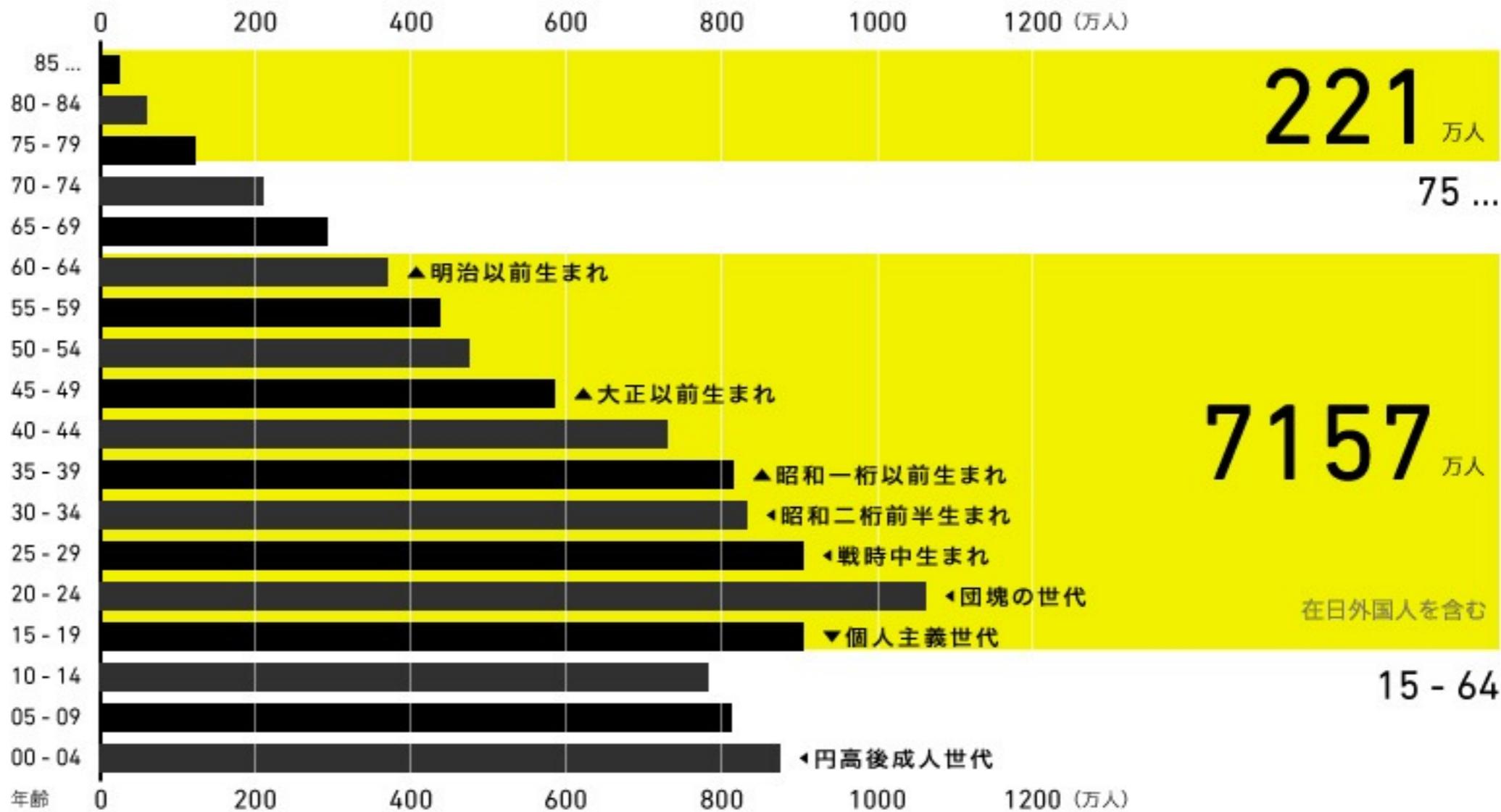


グラフデータ：ツタグラ 藤谷氏セッション資料  
出典：国勢調査

# 日本の人口推移

1970

大阪万博の頃

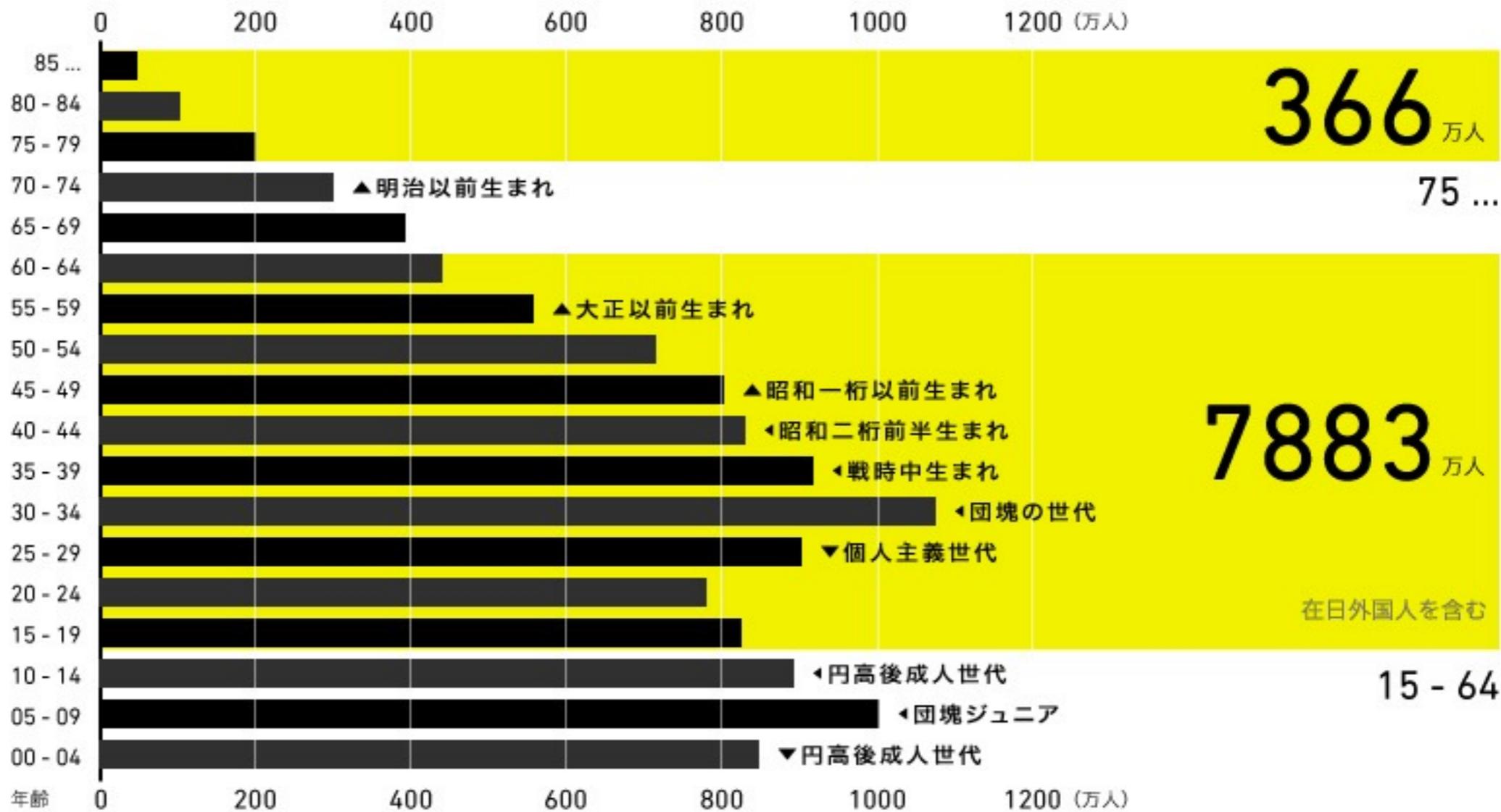


グラフデータ：ツタグラ 藤谷氏セッション資料  
出典：国勢調査

# 日本の人口推移

1980

安定成長移行期の頃

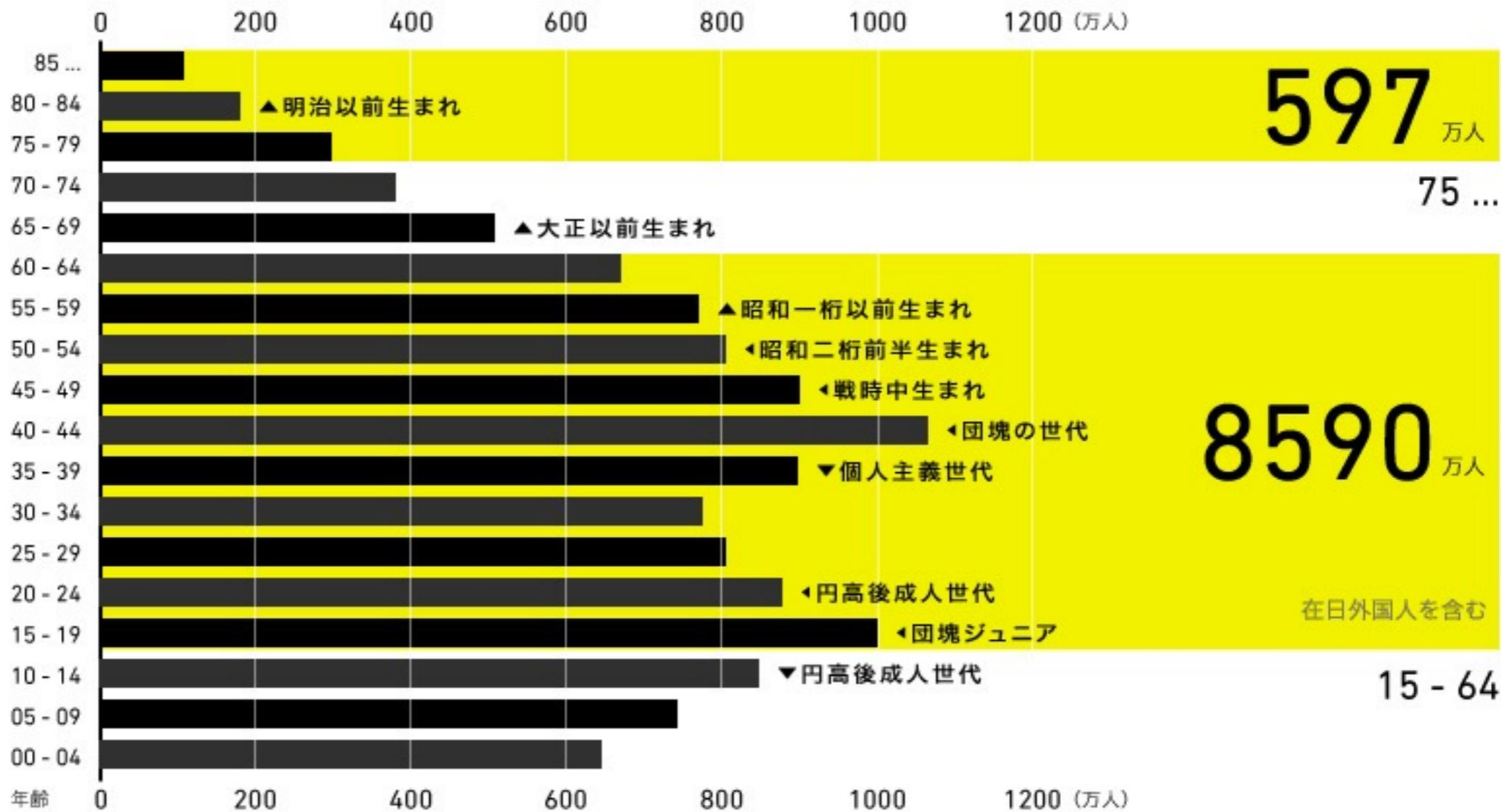


グラフデータ：ツタグラ 藤谷氏セッション資料  
出典：国勢調査

# 日本の人口推移

1990

バブル最盛期の頃

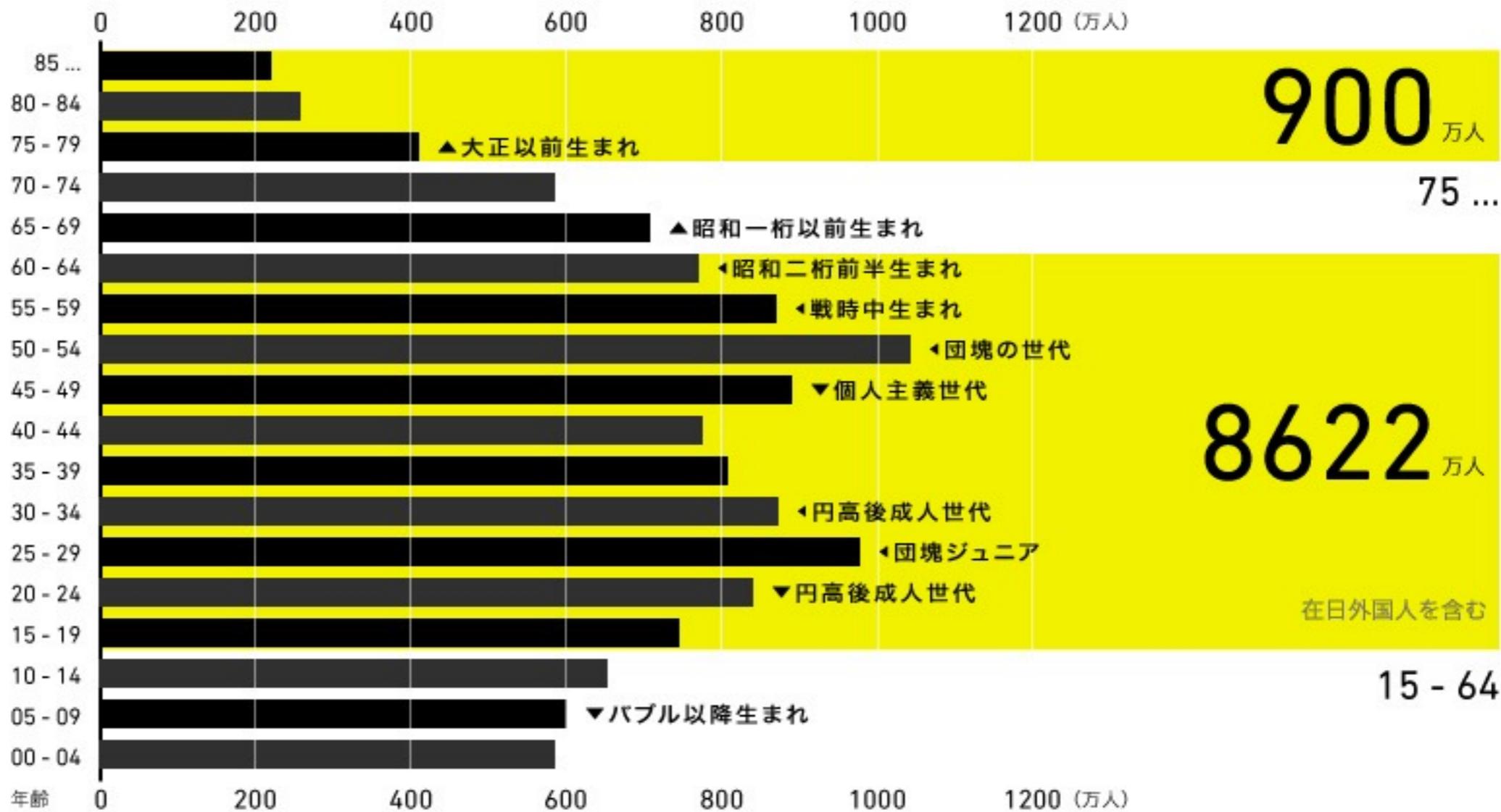


グラフデータ：ツタグラ 藤谷氏セッション資料  
出典：国勢調査

# 日本の人口推移

2000

2000年問題の頃

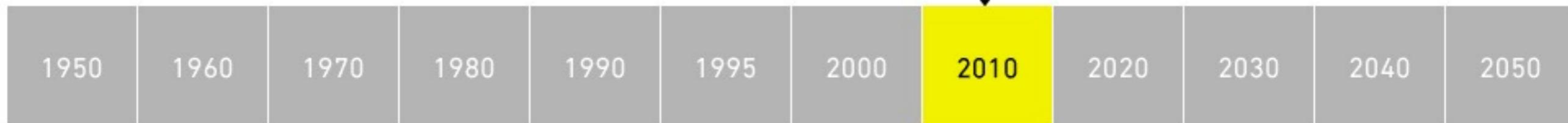
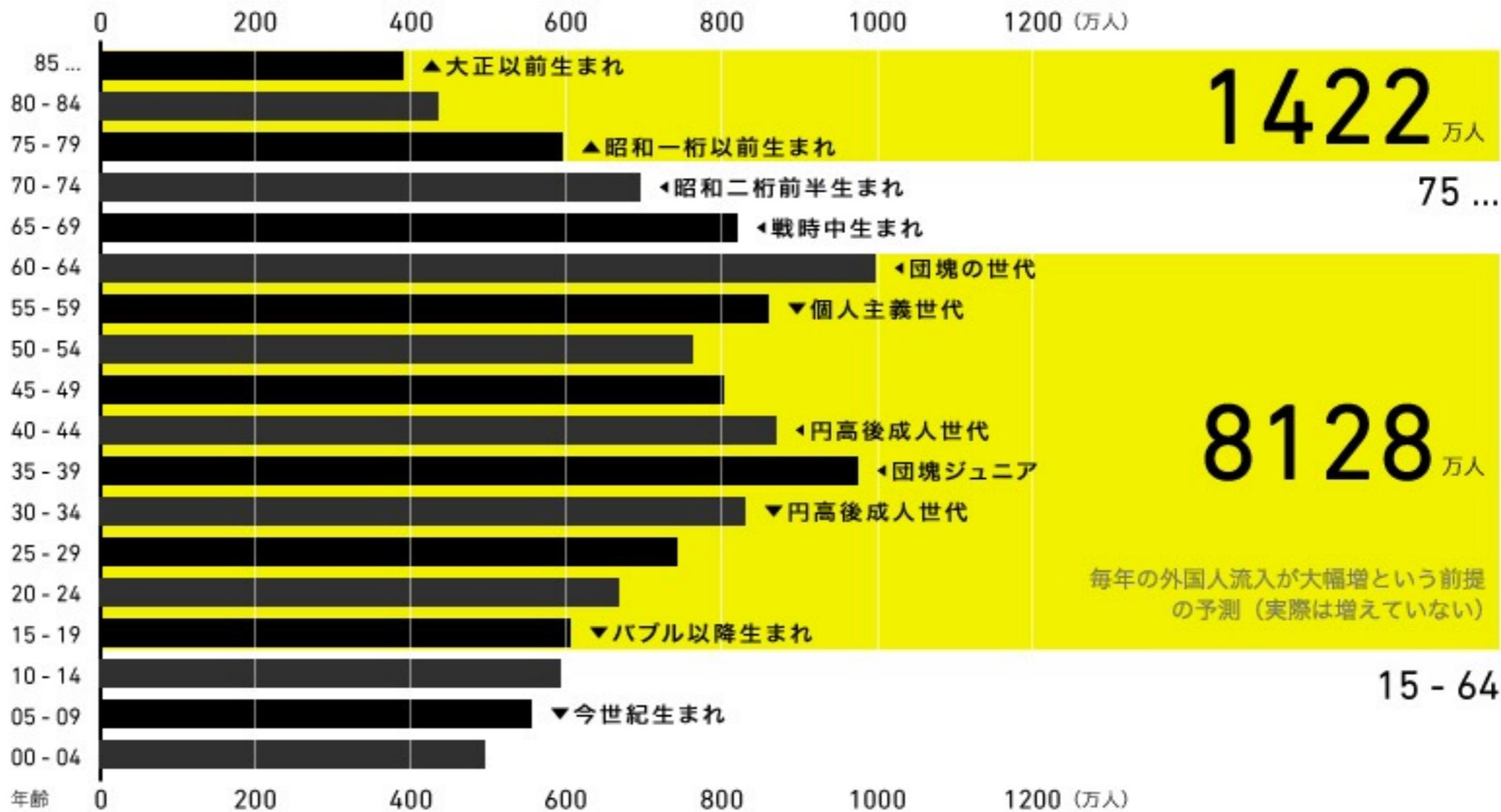


グラフデータ：ツタグラ 藤谷氏セッション資料  
出典：国勢調査

# 日本の人口推移

2010

現在



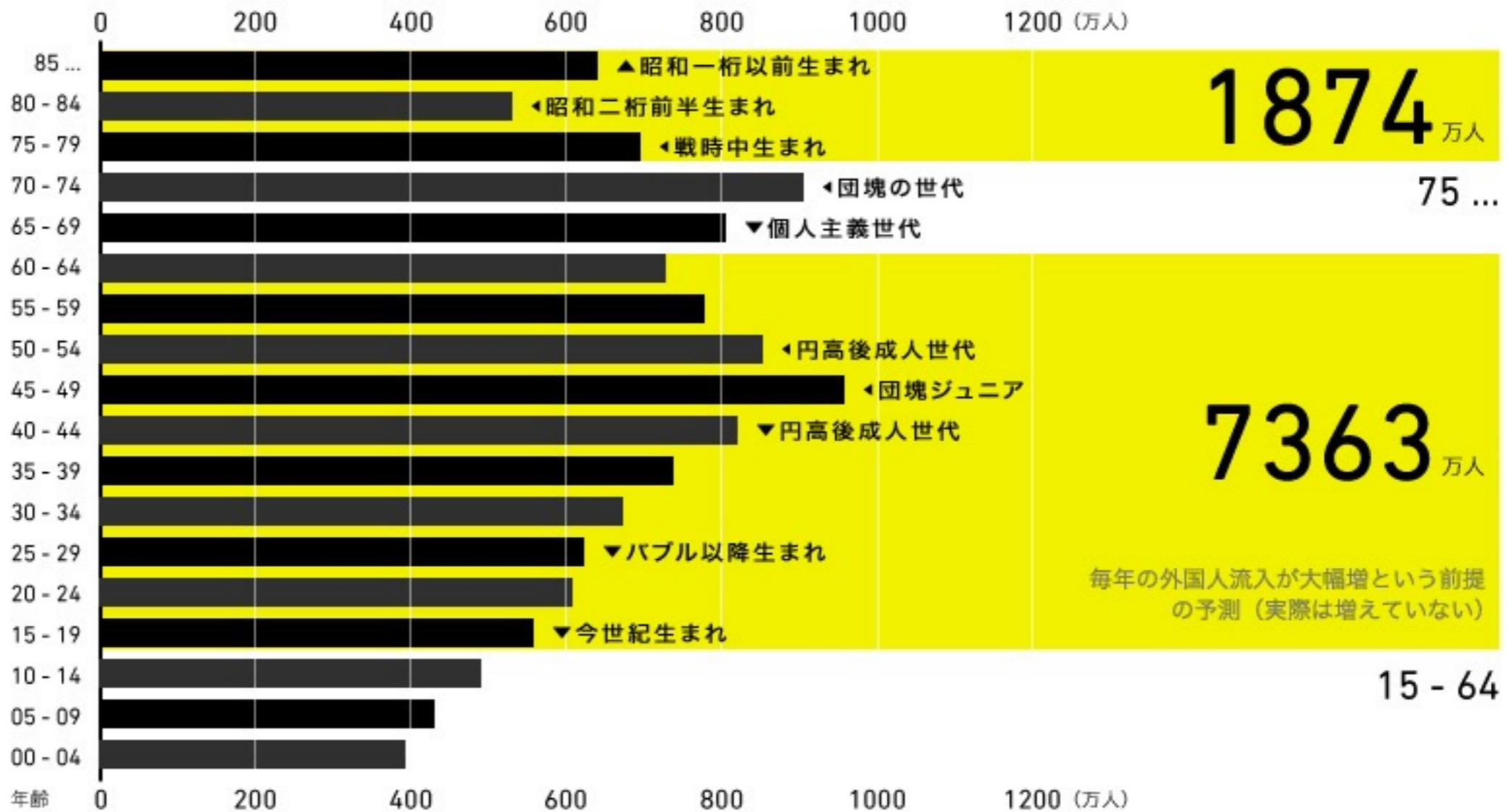
グラフデータ：ツタグラ 薬谷氏セッション資料

出典：国立社会保障・人口問題研究所中位推計（2006年改訂）

# 日本の人口推移

2020

10年後の未来

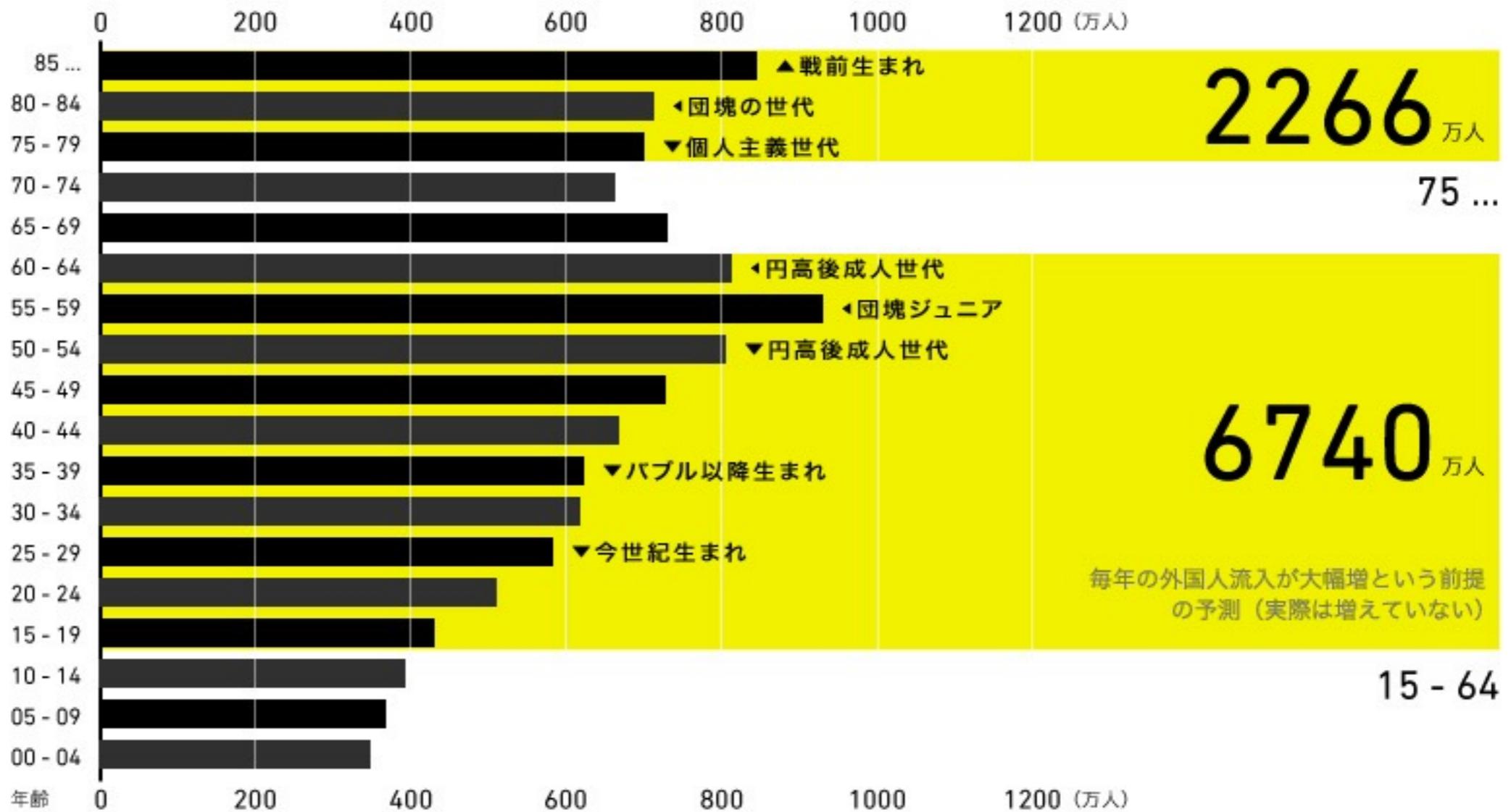


グラフデータ：ツタグラ 薬谷氏セッション資料  
出典：国立社会保障・人口問題研究所中位推計（2006年改訂）

# 日本の人口推移

2030

20年後の未来

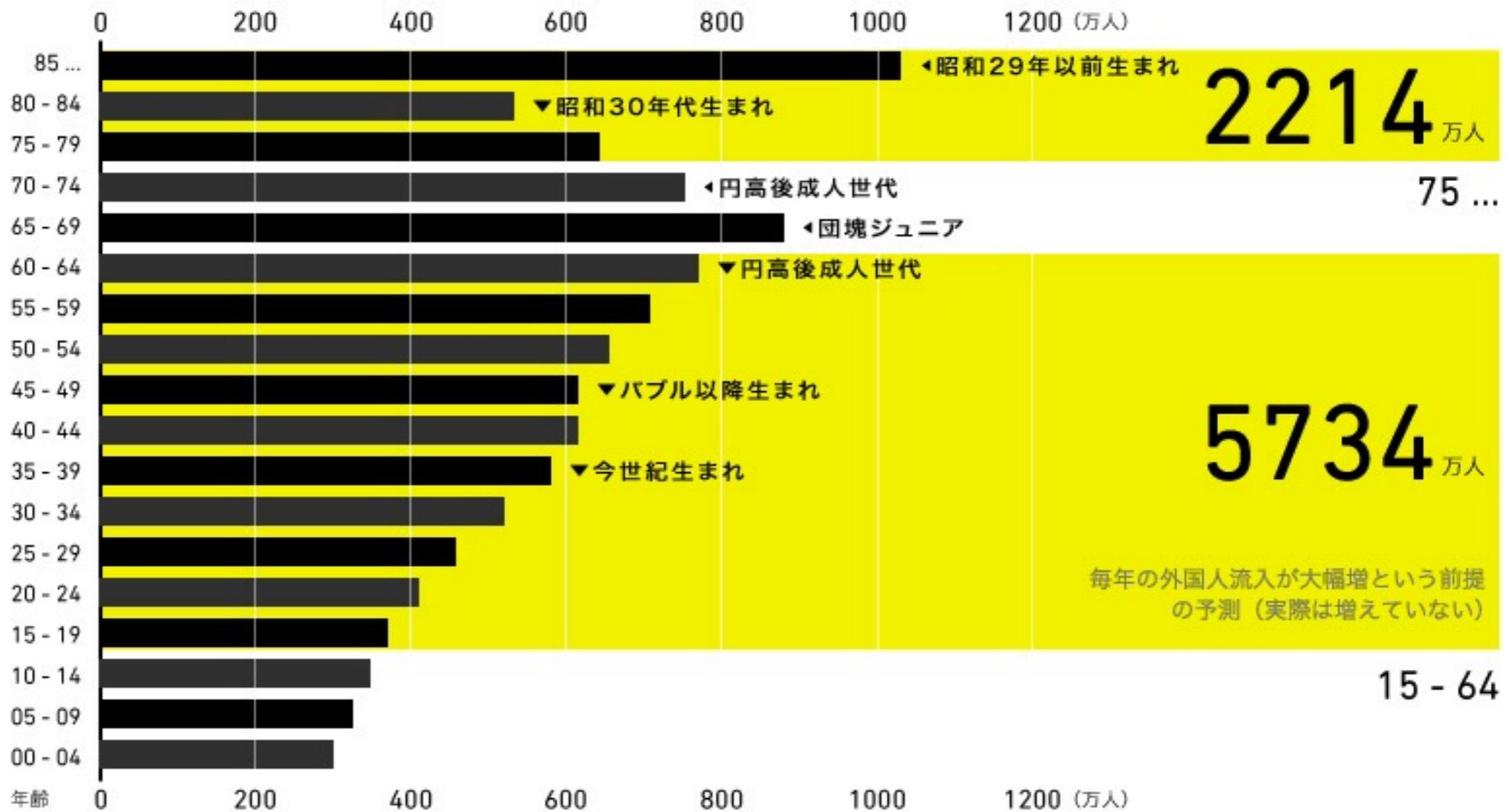


グラフデータ：ツタグラ 薬谷氏セッション資料  
 出典：国立社会保障・人口問題研究所中位推計（2006年改訂）

# 日本の人口推移

2040

30年後の未来

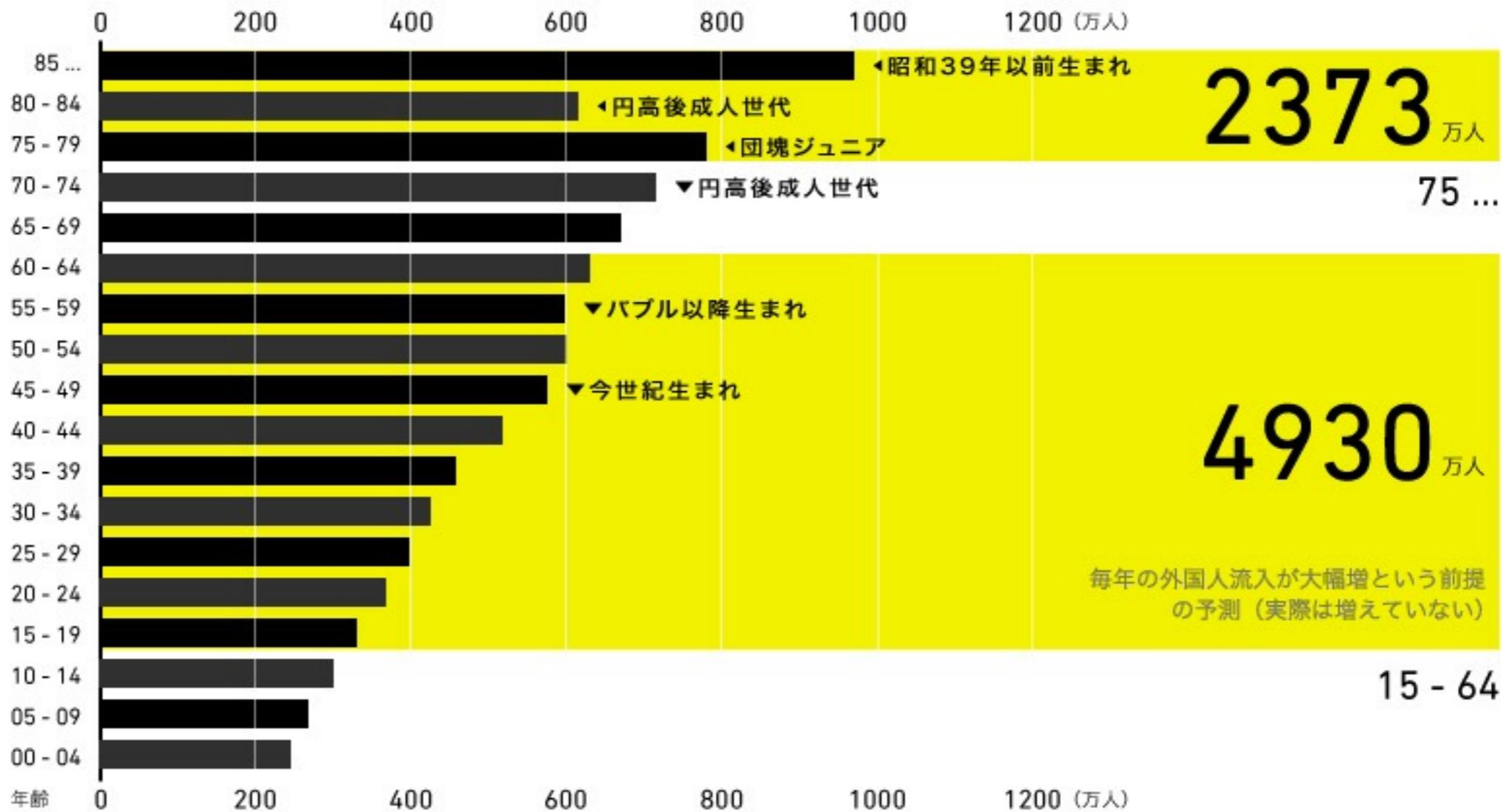


グラフデータ：ツタグラ 薬谷氏セッション資料  
 出典：国立社会保障・人口問題研究所中位推計（2006年改訂）

# 日本の人口推移

2050

40年後の未来

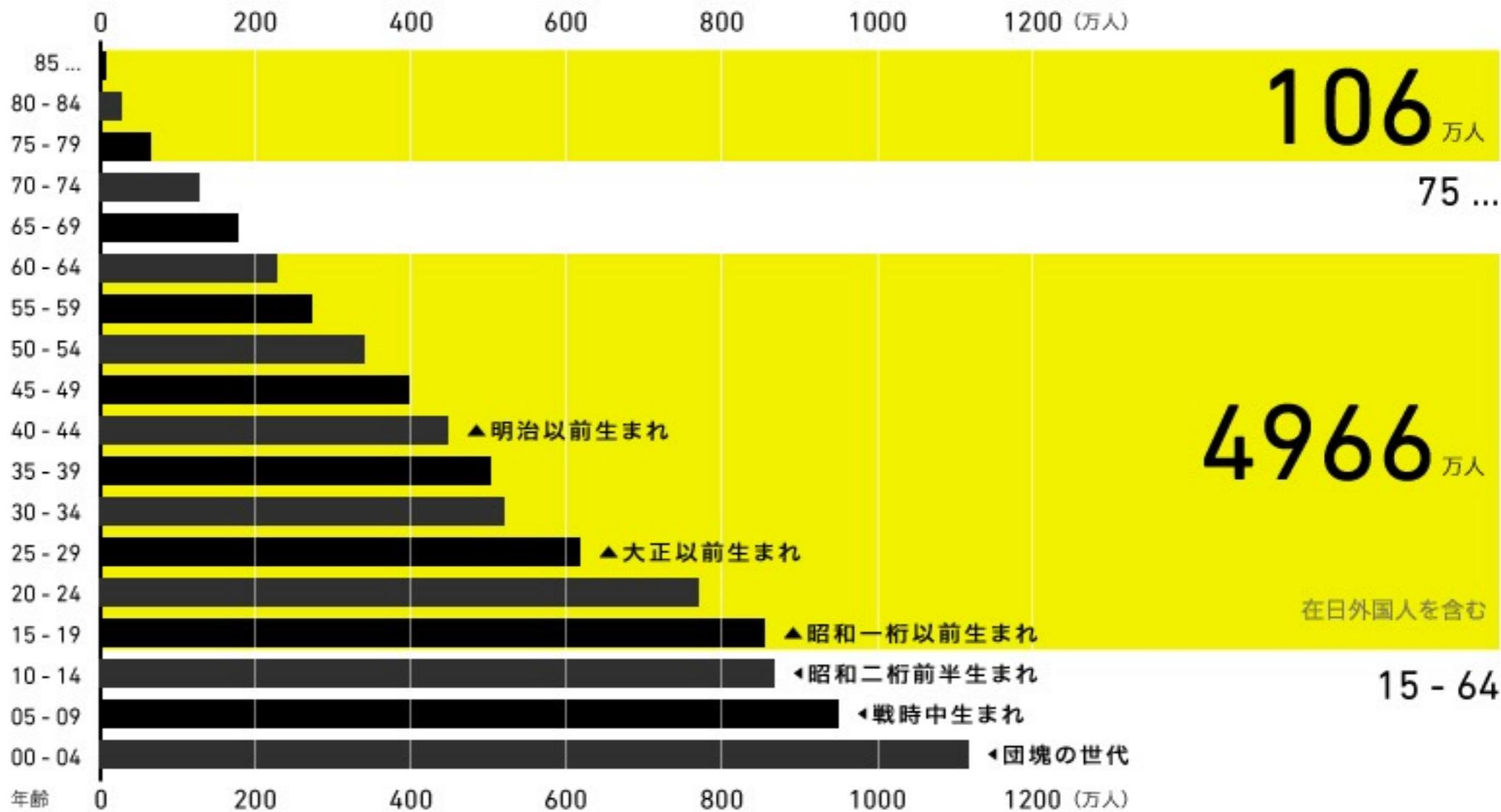


グラフデータ：ツタグラ 薬谷氏セッション資料  
 出典：国立社会保障・人口問題研究所中位推計（2006年改訂）

# 日本の人口推移

1950

戦後復興の頃

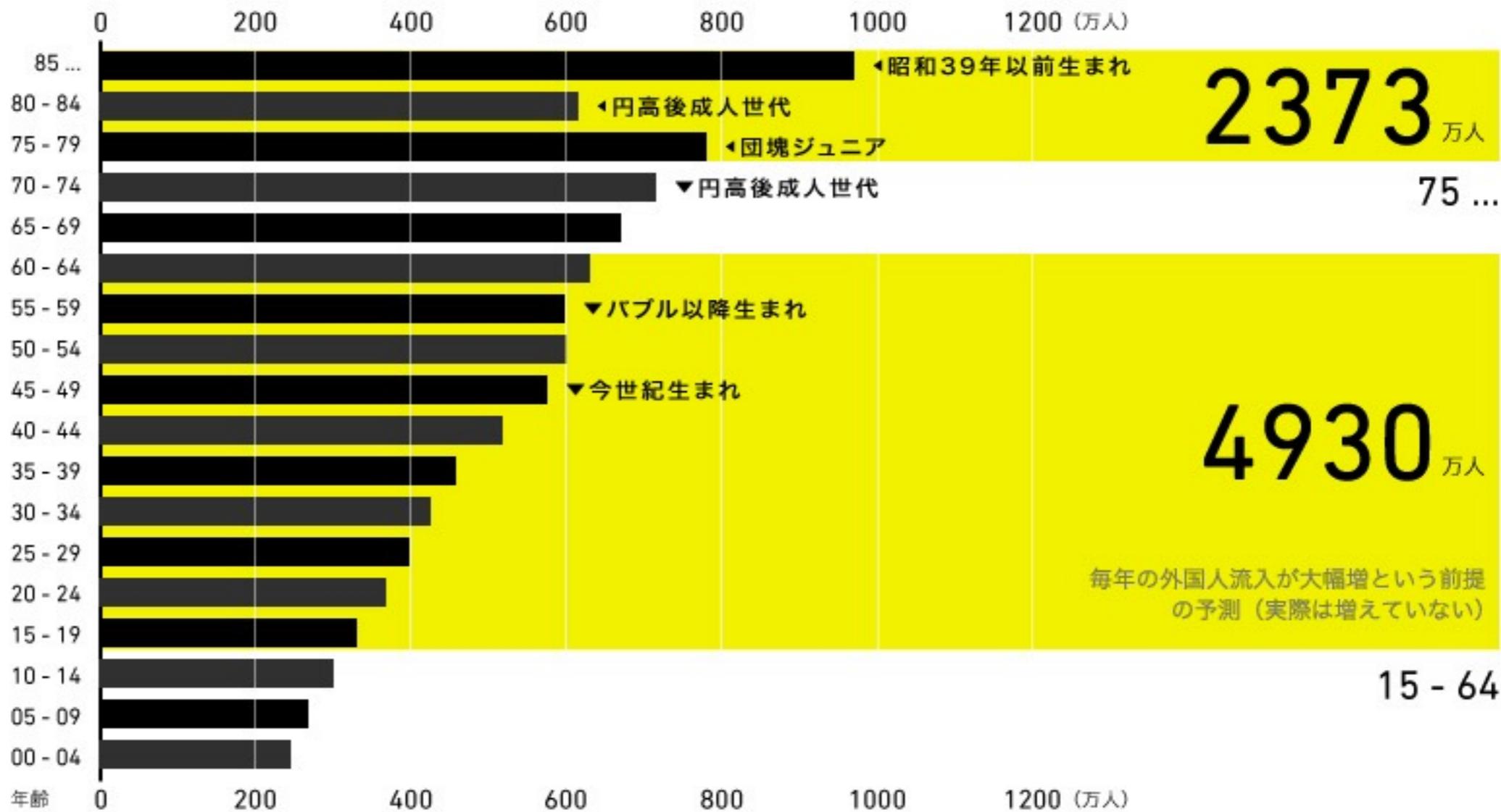


グラフデータ：ツタグラ 藤谷氏セッション資料  
出典：国勢調査

# 日本の人口推移

2050

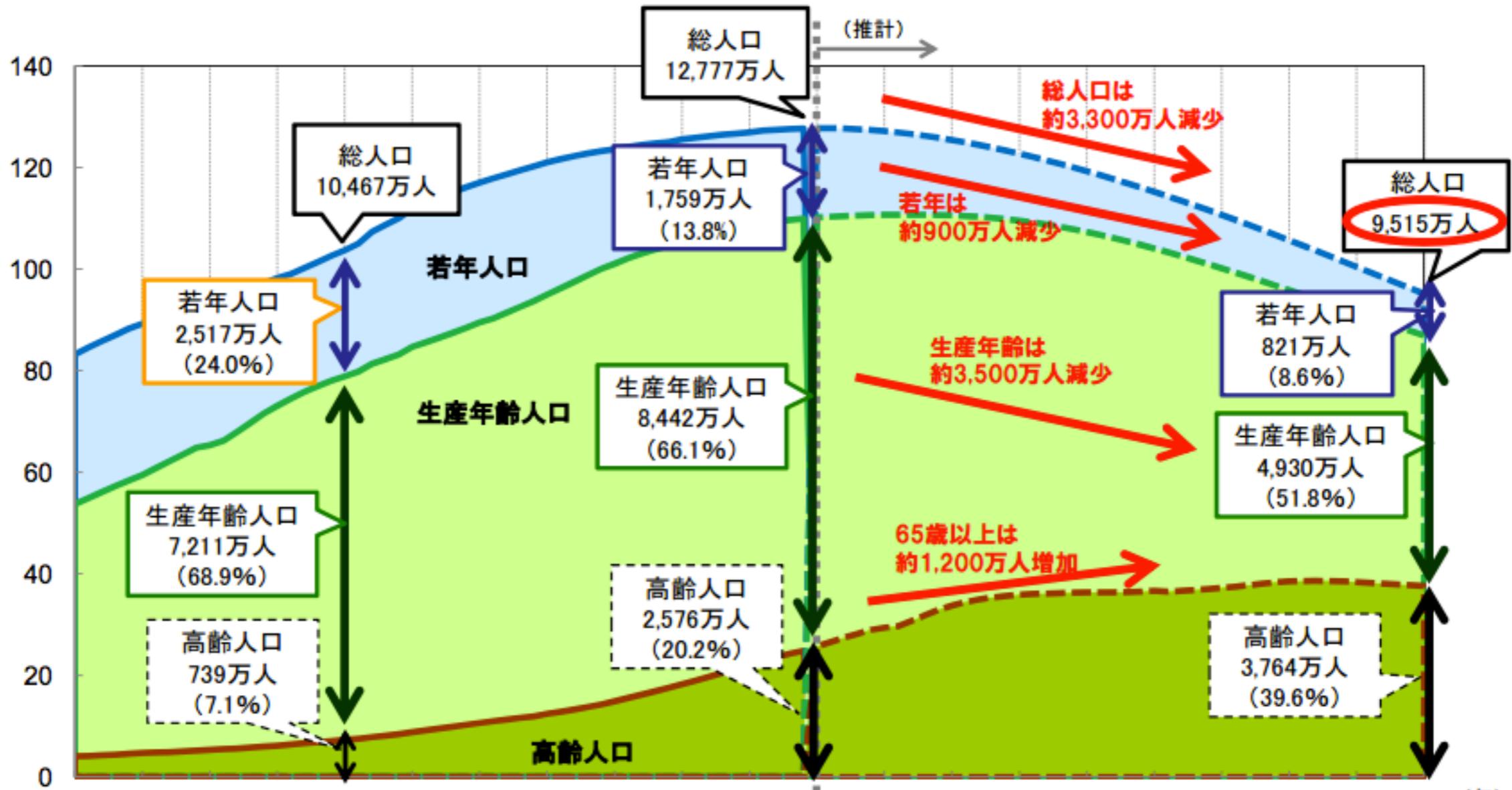
40年後の未来



グラフデータ：ツタグラ 薬谷氏セッション資料  
 出典：国立社会保障・人口問題研究所中位推計（2006年改訂）

もう少し詳しく  
みてみましょう

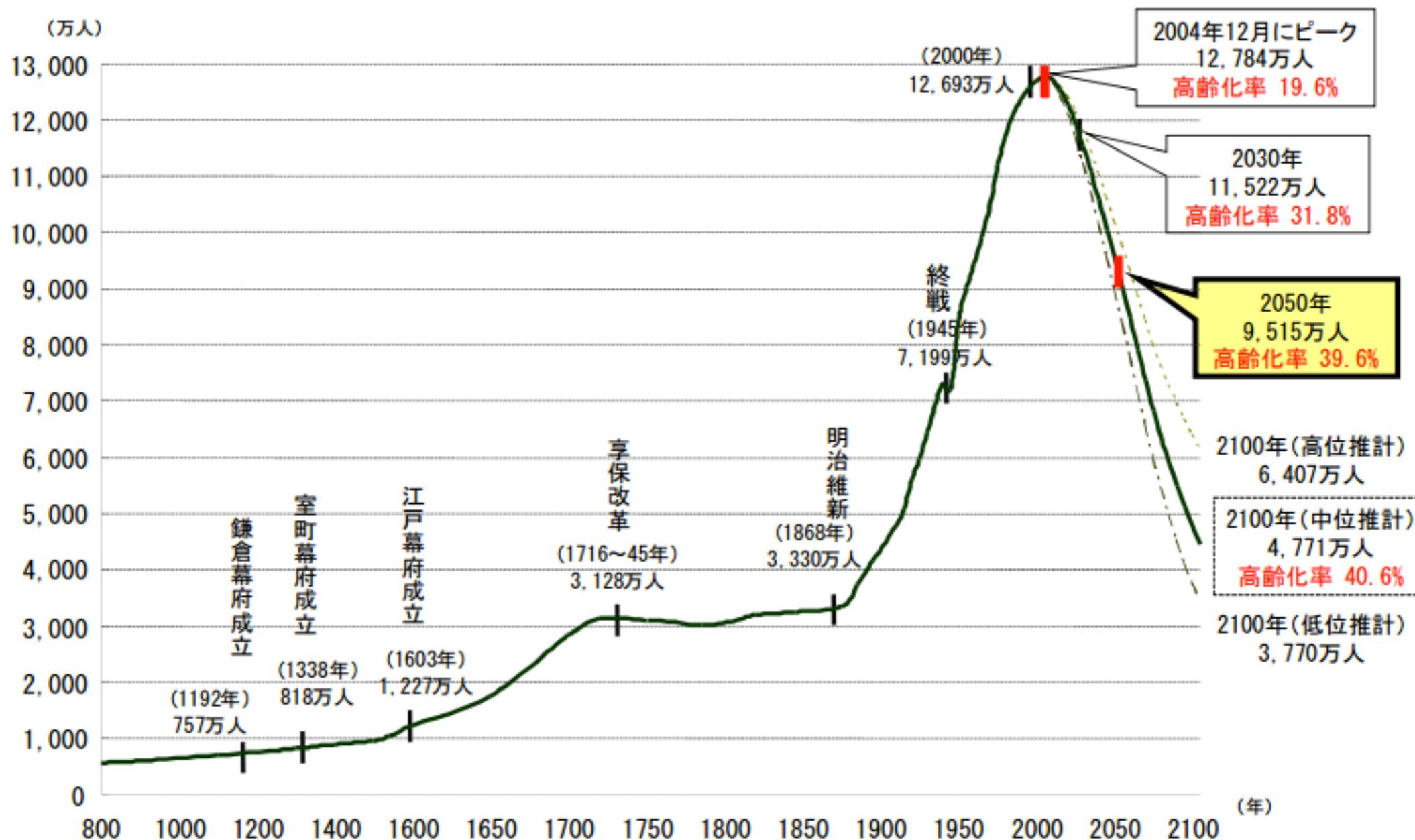
○日本の総人口は、2050年には、9,515万人と約3,300万人減少(約25.5%減少)。  
 ○65歳以上人口は約1,200万人増加するのに対し、生産年齢人口(15-64歳)は約3,500万人、若年人口(0-14歳)は約900万人減少する。その結果、高齢化率で見ればおよそ20%から40%へと高まる。



(出典) 総務省「国勢調査報告」、同「人口推計年報」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(平成18年12月推計)」における出生中位(死亡中位)推計をもとに、国土交通省国土計画局作成

(注1) 「生産年齢人口」は15~64歳の者の人口、「高齢人口」は65歳以上の者の人口  
 (注2) ( )内は若年人口、生産年齢人口、高齢人口がそれぞれ総人口のうち占める割合  
 (注3) 2005年は、年齢不詳の人口を各歳別に按分して含めている

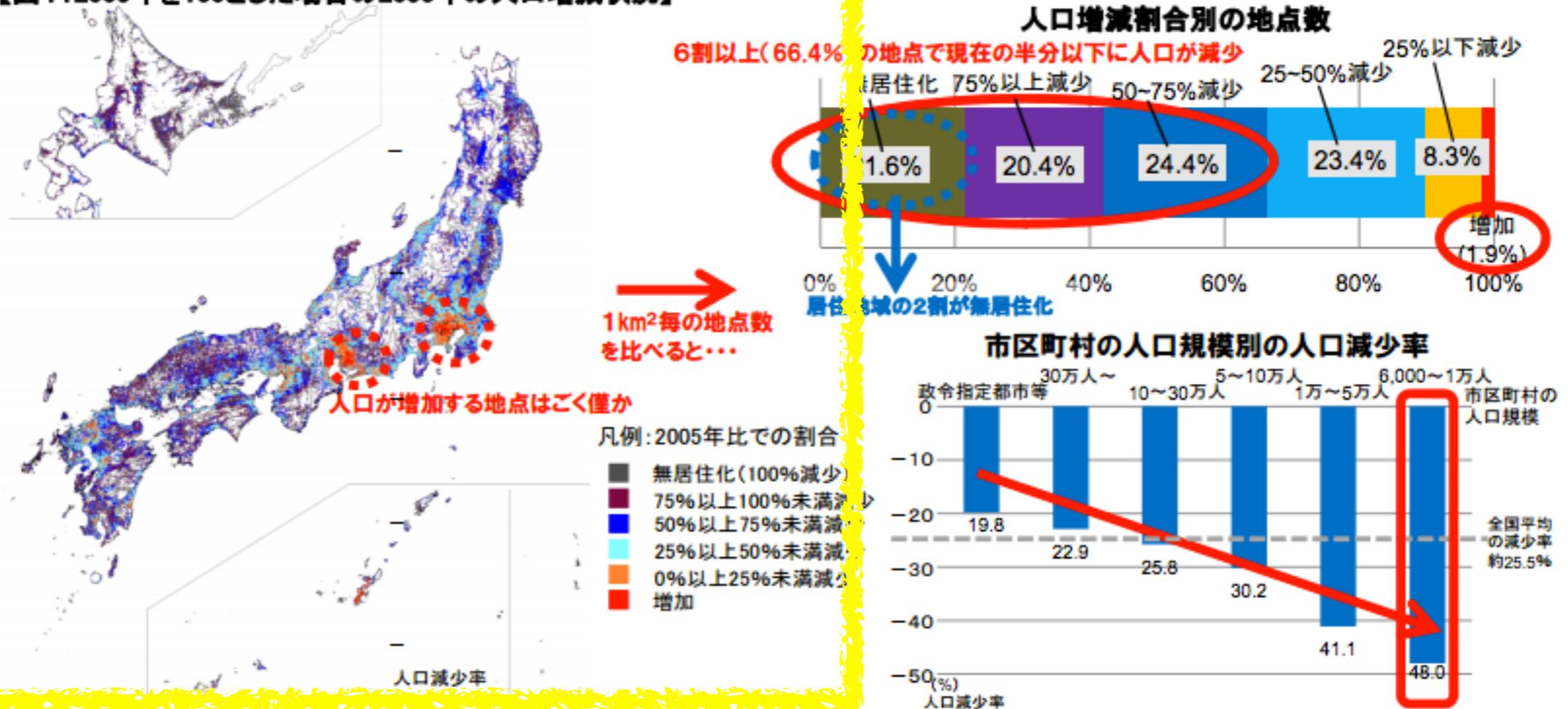
○日本の総人口は、2004年をピークに、今後100年間で100年前(明治時代後半)の水準に戻っていく可能性。  
この変化は千年単位でも類を見ない、極めて急激な減少。



(出典)総務省「国勢調査報告」、同「人口推計年報」、同「平成12年及び17年国勢調査結果による補間推計人口」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(平成18年12月推計)」、国土庁「日本列島における人口分布の長期時系列分析」(1974年)をもとに、国土交通省国土計画局作成

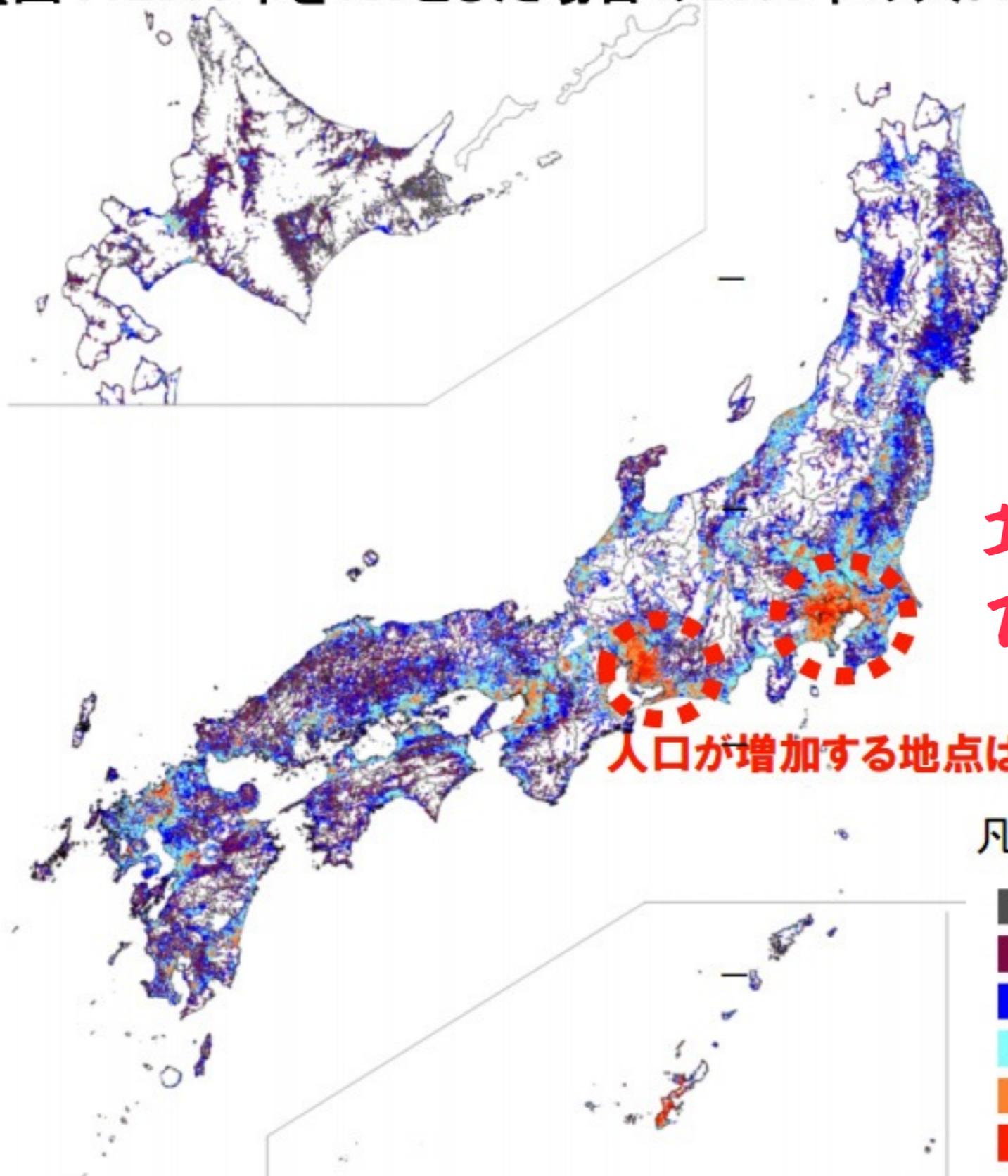
- 全国を「1km<sup>2</sup>毎の地点」で見ると、全国的な人口減少率(25.5%)を上回って人口が減少する(人口が疎になる)地点が多数となっている。特に**人口が半分以下になる地点が現在の居住地の6割以上**を占める。
- 人口が増加する地点の割合は2%以下であり、東京圏と名古屋圏に多い。**
- 「市区町村の人口規模別」にみると、**人口規模が小さくなるにつれて人口減少率が高くなる傾向**が見られる。また、人口規模が10万人以下の市区町村では、平均の人口減少率が全国平均の25.5%を上回る市区町村が多い。特に現在人口規模が10万人以下の市区町村では、人口が半分以下になる地点が多い。

【図1: 2005年を100とした場合の2050年の人口増減状況】



⇒これから生じる人口減少は、国土全体での**人口の低密度化と地域的偏在が同時に進行**するという、これまで経験したことがない新たな現象が進行すると考えられ、そのことにより生じる課題を整理・検討する必要。

【図1：2005年を100とした場合の2050年の人口増減状況】



増えるところ  
ないじゃん

人口が増加する地点はごく僅か

凡例：2005年比での割合

- 無居住化(100%減少)
- 75%以上100%未満減少
- 50%以上75%未満減少
- 25%以上50%未満減少
- 0%以上25%未満減少
- 増加

そんな先の予想よんか  
あてにならぬと  
思った人はおほませんか？

それは間違いです

人口予測は  
最も正確な未来予測

なぜそう言えるかと  
いうと…

日本のような社会では  
来年20才の人が  
劇的に増えることは  
ありえない

来年20才の子は  
今年19才

20年後に  
20才になる人は  
今年産まれた子です

途中で増えないのよ  
(減ることはある)

だからかなり  
正確に予測できる

もういいですよね…

人口は当分の間

増えなると考えた方がいい

これでもまだ……

人口が増えたらなんとかなるかも…  
なんて思ってる人いませんか？

増えません

だって、その増える人達を  
どこから呼んでできますか？

となり町ですか？

都会の人達ですか？

海外ですか？

万が一、自分の所で増えても  
よるの地域で減っちゃう

それは、  
幸せなモデルと  
いえるでしょうか？

だから、私たちがいま  
考えるべきなのは

# 人口が減ることを前提にした 地域づくりの考え方

人口が増える → 幸せ

この発想を捨てよう

人口が減る → 不幸せ

この発想も捨てましょう

人口が減る → 幸せ

という社会づくり

そんなのありえない！……

と思いますか？

でも、人口が減るのが  
明らか以上  
「減ったら不幸」と思っ  
ている限り、地域は幸せに  
なれません

ここを抜け出す以外にない！

発想の転換が必要です

# 発想の転換といえは

ものは考えよう  
という話をもう少し

# 地方は日本の最先端

今から  
日本国じゅうの  
人口減少が始まる

今まで

経験したことのない

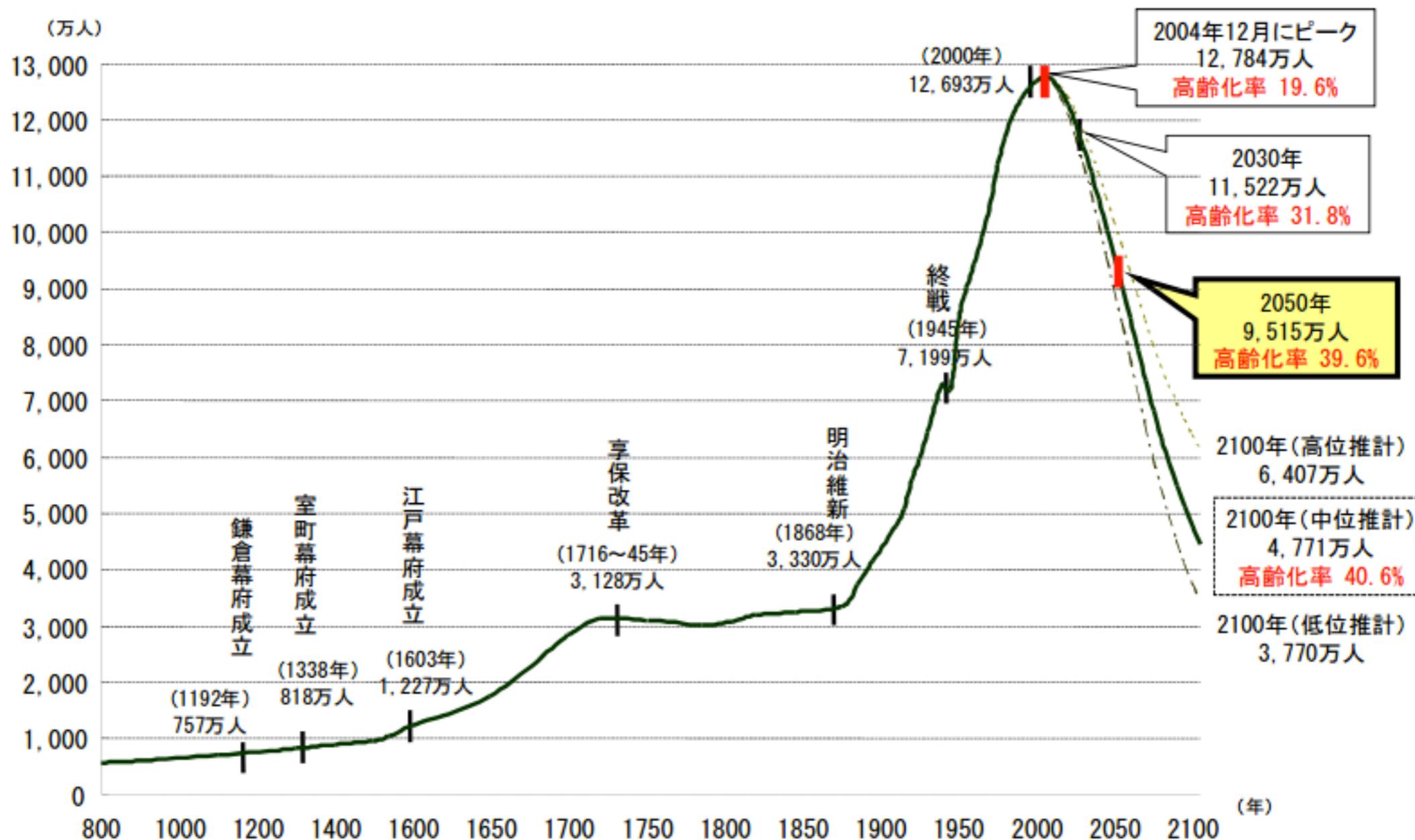
すごい減り方

実は、誰も

人口減少を経験したことが

ない

○日本の総人口は、2004年をピークに、今後100年間で100年前（明治時代後半）の水準に戻っていく可能性。この変化は千年単位でも類を見ない、極めて急激な減少。



(出典)総務省「国勢調査報告」、同「人口推計年報」、同「平成12年及び17年国勢調査結果による補間推計人口」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(平成18年12月推計)」、国土庁「日本列島における人口分布の長期時系列分析」(1974年)をもとに、国土交通省国土計画局作成

## 平安時代から最近まで増えてた

人口が増え続ける



経済は発展し続ける

こういうのを  
「右肩上がりモデル」  
というんでしたよね

大人たちの中には  
まだ「右肩上がりモデル」を  
信じている人が多い

人口は減ります

だから...

人口増を根拠とした経済発展

もありえません

減るって言われても

ピンとこない！

いや、いづれ増えるでしょ？  
増えたら元気出ますよ…

でも、さつき確かめた通り)

人口は増えません

もう、いいかげんに  
そういう考え方を  
捨てた方がいい

「右肩上がりモデル」では  
今後到来する社会の問題を  
全く解決できない！

地方は人口減少の最先端  
(悪意味じゃなくて…)

実は、誰も  
人口減少を  
経験したことがない！

どんなえらい先生も！

どんな立派な政治家も！

何が起きるか

実は知らない！

日本で一番最初に  
人口減少を  
経験している地域

それが、地方の町や村です

もし、皆さんの地域で…

「人口が減っても皆が幸せ」

とか

「人口が減っても皆が元気」

というモデルが作れたら

誰も実現したことがない！

新しい地域のモデルが完成

これって、すごくない？

日本中がこの先

経験せざるを得ないことを

— 一番最初に体験できる

— 一番最初に解決できる

最先端モデル！

みんな

最先端モデルを作る

っていいか...

たぶん地方の町や村の  
人たちにしかできない！

つまり

日本の将来のあり方を  
つくっているのが  
皆さんということです

さらに発想の転換を

田舎ではお年寄りが  
働いてませんか？

都会のお年寄りは  
働くところがないけれど

田舎には田んぼや畑がある

日本では  
就労人口を

15歳～65歳としてるけど

とんでもない！

80歳のお年寄りも

90歳以上のお年寄りも

田舎では、働いています

働いているということとは

価値を生み出している  
ということ

人口が減ったって  
高齢化が進んだって  
元気にやっている地域は  
あります

ところで高齢化率と

いえば…

あちこちの地域に  
お伺いすると  
お年寄りの皆さんが  
口をそろえて言います

# 高齢化率が高いのが問題

でも…

じゃあ、あなたの存在が  
問題なんですか？

「とんでもない！  
私がお問題じゃない！  
ですよ……」

自分のことを問題だと  
言うのはやめましょう

そこに希望を見出そう

この地域は高齢化率が  
高いのが問題と  
言うのは禁止（笑

高齢化率なんて

高くてもいい

みんながニコニコ  
暮らしていけるなら  
人口減も高齢化率も  
あんまり関係ない！

ここで少し

「価値」と「効率」の話

【地方の商店街を例に】

地方の商店街が衰退していると  
よく言われます

なぜ商店街が衰退したか

人口が減ったから…

お客がいなくなったから…

本当にそうだろうか……

地域の大型スーパーや  
ドラッグストアには  
お客がいる

地方であつても  
イオンモールには  
お客さんがいる

そういうと  
商店主の皆さんは…

大きなスーパーには価格で  
たちうちできない！…

だってイオンに行ったら  
うちの仕入れ値以下で  
売ってんだもん……

価格が高いから問題？

本当にそう？

でも、定価高売をしている  
ローソンにはお客がいる

高くたって

売れるところでは売れる

じゃあローソンはなぜ価格が  
高くても、繁盛しているの？

価値を生んでいるから

つまり、商店街が衰退  
しているように見えるのは…

人がないから...でも  
価格が高いから...でも  
どちらでもない！

人を呼び寄せる

「価値」が足りないから

(生産性) = (効率) × (価値)

「効率を上げる」

よりも

「価値を上げる」

実は相田舎は「価値」の宝庫

高いお金を払って  
田舎体験をしたという  
人って

皆さんが思っているより  
はるかに多いです

地方は最先端  
田舎を高く売れ！

大量生産・大量消費に  
だまされちゃだめです

「私らの商品はな…  
手作りで、時間かかるし  
手の空いた時にしか  
できなから…」

「いつでもあるとは限らんし」

「高いけどいいか?」

立場逆転です

発想の転換が必要

発想の転換は

なかなかオトナには難しい

特に男の人が苦手です

女の人や若者たちは  
かなし顔脳が柔軟です

地域の自治会長さんたちの  
マインドセットとして…

女の人や若者を巻き込んで  
できるだけ意見を聞いてみて！

さらに言えば...

女性や若者が考えてることを  
できるだけ応援してあげて…

好きにやってみる

責任はオレがとる

と、言えるとは一番いい

さて...

地域づくり・まちづくり  
の話をしておきます



まちづくりって  
なんですかね…

道路をつくる？  
住宅地をつくる？

それもハードの  
まちづくり

でも、それだけじゃない。

# 地域課題を解決する 取り組みの総称

たとえば

大地震が起きたら  
地域で協力しあい  
お互い助け合う

困っているお年寄りを助ける

子供たちを見守り育てる

地域活動への参加者が  
少ない問題を  
どうにかする

地域を活性化したい！

みんなまちづくりです

私の定義によると

まちづくりというのは

地域の困り事を  
長期にわたる  
自分たちの取組みで  
解決しようとする  
活動

長期にわたる活動

自分たちの取り組み

ここがポイント

長期にわたる活動

自分たちの取り組み

自助・共助・公助

って聞いたこと

ありますか？

公助

行政がなんとか  
してくれる

共助

地域のみみんな  
でなんとかする

自助

自分ひとりで  
なんとかする

点の部分を含む

自助・共助・公助

まちづくりの  
範囲はココ

共助

地域のみみんな  
でなんとかする

地域の課題・問題点を

地域のみんなの力で

なんとかする

たぶんそれが  
まちづくり

もう少し言おうと……

地域の将来の姿を  
自分たちで描いて  
自分たちでつくりあげる

もちろん

行政の手助けがないと

できないうちにもある

それは

行政にお願いしたらいい

それが「公助」

まちづくりの  
ススメ方

自分たちの地域の問題を  
自分たちで解決するって…

どうしたらいい？

# ①まず現状の確認

課題・問題点を  
明らかにすること

使える資源を  
明らかにすること

## ②課題かどうかの検討

それはお地域の皆で  
解決できることかどうかを  
考える

# ③課題解決のアイデア出し

アイデアを  
たくさん出す

# ④ アイデアの絞り込み

アイデアの中から  
できそうなものを選ぶ

# ⑤実現のための方法検討

選んだアイデアの  
実現の方法を  
よく考える

# ⑥取組み

とりあえず  
何かやってみる

- ① まず現状の確認
- ② 課題かどうかの検討
- ③ 課題解決のアイデア出し
- ④ アイデアの絞り込み
- ⑤ 実現のための方法検討
- ⑥ 取組

これを繰返すしかない！

まちづくりが  
何かというのは  
なんとなく  
分かってきた

でも「まちづくり」って

必要なのん？

現時点で誰も困って

いなければなら

自分たちで  
地域の課題を  
解決する必要もない！

…まち

なるほど  
たしかにそうかも  
しれない！

でも...

それでは済まない時代が  
やってきました

それが

人口減少社会だったり

参画と協働社会だったり

します

# 参画と協働の概念

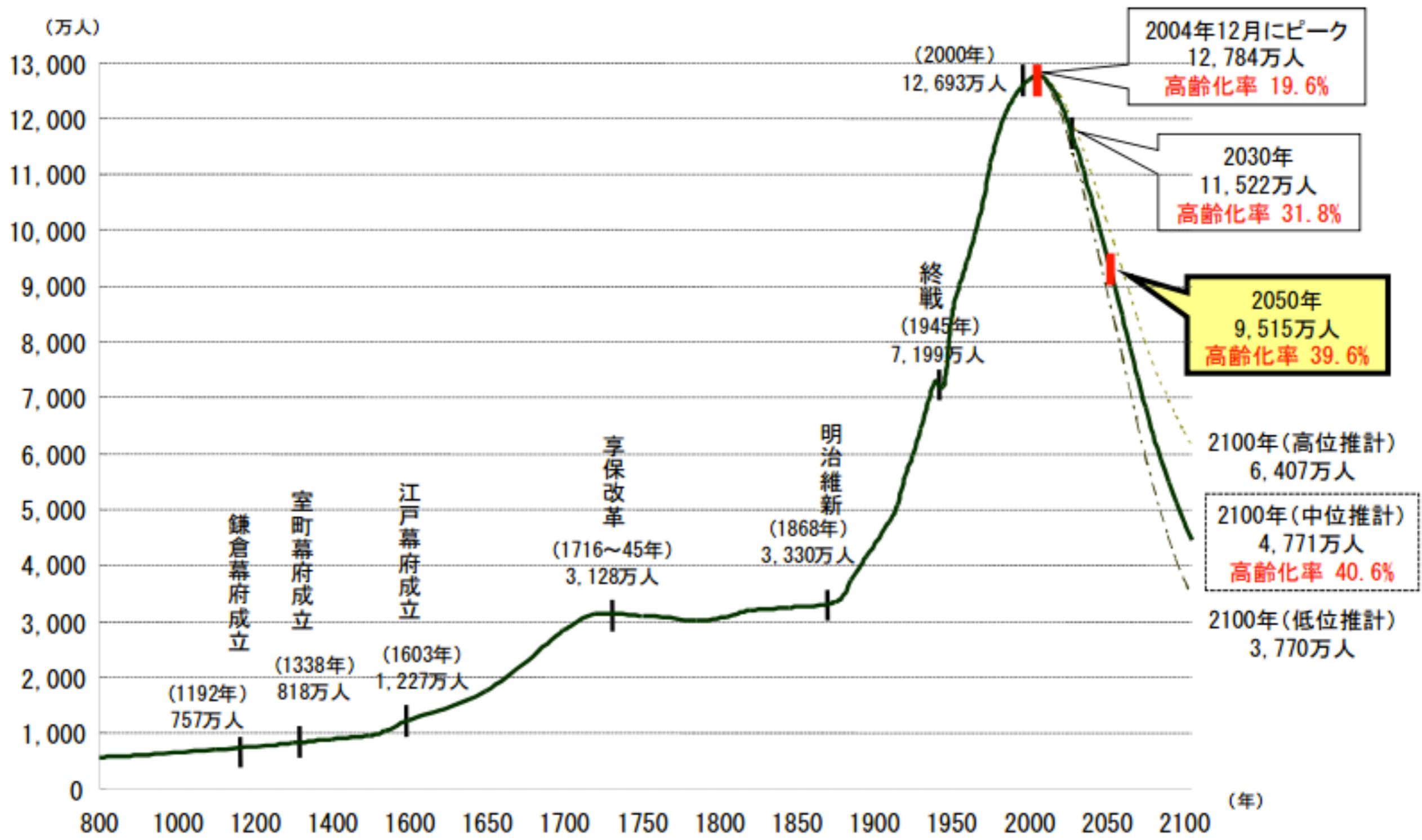
現代日本社会は  
すごい勢いで  
変化しています

# 少子高齢・人口減少

# 单身世帯化・未婚率上昇

人口が減るのは明らか  
(既定の事実)

○日本の総人口は、2004年をピークに、今後100年間で100年前（明治時代後半）の水準に戻っていく可能性。この変化は千年単位でもみても類を見ない、極めて急激な減少。



(出典) 総務省「国勢調査報告」、同「人口推計年報」、同「平成12年及び17年国勢調査結果による補間推計人口」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(平成18年12月推計)」、国土庁「日本列島における人口分布の長期時系列分析」(1974年)をもとに、国土交通省国土計画局作成

この先  
何が起きるか  
誰も知らない！

だから少なくとも  
何か起きてもいかに  
多様な対応ができる  
ようにしておきたい

「人が増えたら幸せ」

から

「人が減った方が幸せ」

への価値転換

ここに知恵を投入する  
必要がある

何が起きるか  
分からなからね...

新しい時代は

なかなか過去の経験が  
活かしてこない場面も多い

どうしても  
新しい知恵が必要

たとえば役所では…

役所の職員が  
年上の先輩に聞いても  
分からないことも  
出てくる

そういう時に  
頼りになるのは  
一緒に考えてくれる  
仲間や市民の皆さん

この  
「市民とともに考えよう」  
というのが  
参画と協働

# 参画と協働のキホン

社会の規模が小さくなる

人口が減ると

役所の職員も減ります

でも地域の数は  
変わりませんよね

小さくはなるかも  
しれないけれど

自治会とか区とかが  
消滅するのは  
もっと先

そうすると

明らかに  
地域の数に対して  
役所職員の数が足らなくなる

手が回らない！…

行政だけで対応  
できるかどうか  
分からない社会

皆の幸せを  
維持していくためには

公益の実現を  
市民の手で  
という考え方が  
必要になってくる

つまり

自分たちのことは  
自分たちでやってみ  
という考え方です

世の中は

価値観が多様化している  
と言われます

行政が一律の  
ルールで地域を  
支えようとしても

地域によって  
事情が違ったりする

全部には対応できない

役所が何をやっても  
文句を言われる (笑)

そもそも行政は  
個別の対応が苦手です

地域ごとに  
違う対応をするとか

だれか一部の人の  
ためだけになることをする

そういうことがしにくい

それなら...

個別の事情については

「それぞれ個別のことは  
市民の側でやってよ」

まあ、なんか

≡モフタモナイけど...

行政としての態度としては

これでいいように思う

任せられるところは  
地域に任せちゃおう

ぶつちやけ…

協働の姿の基本は

ここにある

こんなことを言うと…

結局、行政は  
本来のしごとを  
地域に丸投げするののか！

って怒出す人がいます

# 行政による 丸投げ？

まあ、たしかに  
そんな気になる

その気持は分かる

でもよく考えてみて

そもそも

私達お行政の人達に

地域運営を

預けてただけです

みんなでお金を出し合って

役所をつくって  
人を雇って

公共のためになる  
仕事をさせている

# これが行政の本質

お役人のことを  
公僕というのは  
それが理由です

つまり...

協働社会ってというのは

行政による  
住民への仕事の丸投げ  
ではなく

預かっていただいた仕事を  
住民に返すだけのこと

丸投げではなく  
返却だといえる

# 地縁社会

昔はこれだけだった

自治会には全加入が当然

協働の草刈り

お葬式はご近所総出

神社の当番

選挙の手伝い

こんなのは普通だった

その後

人々の活動の範囲が  
広がって

価値観が多様化して

人々はいろいろな縁の

社会を構成し

ここで生活を始めた

地縁だけでなく…

社縁

サークル縁

学校縁

ネット縁

地縁に頼らずにも  
生きていける社会

多様な縁力があることは  
大切なこと

ところが...

社会が縮小している  
現代においては

地域というのは  
いやおうなしに  
行政の手から  
地域に返ってくる

「はれ！。返したよ」

って言われた時に

なんの準備も

できずなれ 地域は弱い！

とくに、地縁型の  
コミュニティの  
育っていない地域では

多少は  
苦勞を強いられる  
ことになる

ここにきて再び

地域をまとめる組織が  
必要性になってきた

じゃあ…

# 地縁社会の復活？

自治会には全加入が当然

協働の草刈り

お葬式はご近所総出

神社の当番

選挙の手伝い

いや...

それを復活させるのは

しんどい...

これでは  
若い人たちが  
ついて来にくい

だから……

今、大切なのは  
新しい地縁社会

地域に気持ちよく

暮らすためにも

新しい地縁型の  
社会をつくる必要がある

地域で重要なのは  
そのところか  
も  
知れませんか

たぶん

ここに集まっている

みなさんは

旧来のやり方を

取り戻そうと

思いがちな人たちは？

昔はもつと若者が  
協力的だったし  
地域に参加していた

だから昔のやり方に

戻したらいい

そう思っていたとしたら  
ピンチです

人口減少社会

右肩下がりがあたりまえ

この先何が起きるか不明

昔うまくいらっていた  
やい方にこだわっていると  
うまくいかな社会

どうしても

発想の転換が必要ですよ

# 若い世代の参画の必要性

高齢の代表者が  
頑張っている

そのこと自体は  
悪にとじやない！

でも、そのせいで  
若い人が育たない

とは言っても

全部任せるのはお心配……

確かにそうだけど

高齢の先輩が  
そつやつて頑張つて  
20年とかになると

もう誰もあとを

継げなくなりましたよね

あんな先輩のようには  
できっこない……

こうなるともう  
どうにもならない

だからどこかの段階で

好きにやってみる  
責任はオレがとる

が必要になる

あるいは  
突然なくなる  
という荒技もある

やる人がいなくなれば  
若し者が出てきて  
なんとかするものです

ノウハウは残そう

個人的な能力で  
カバーしている組織は  
長続きしません

個人に頼るのではなく  
仕組みに頼れるのが  
一番よい

誰かが代表になっても  
そこそこ回るような  
仕組みが必要

オレじゃなきゃ  
うまく動かせない！  
と思っている人は  
ちょっと問題

上手にできる方法が  
あるならば

そのやり方を  
仕組みとして残す努力が  
重要です

ノウハウを残すのが  
大切なことです

若い人たちの  
活躍を促進するために

今の地域のリーダーの  
皆さんたちには

変化の大きい

今まで通用のやり方が

通用しない社会にあつて

発想の転換を

手伝ってくれる

若い人たちの助けを

得ることを覚えてほしい！

若者たちは

地域を愛しているし

地域がもっとよくなって

ほしいと思っている

けっして

どうなってもいいとは

思っていない

そういう若者たちに

教えてもらおう

助けてもらおう

そういうマインドで

接してもらえると

若者たちは手伝 やすい

「ワシらが若い頃は  
先輩のやり方を見  
て覚えたもの」

という気持ちは  
分かりませんが...

社会が変わっています

先輩に聞いても  
分からない社会

新しいアイデアが  
必要な社会

# リーダーの話

リーダーのお手本って  
どんなひと？

本田宗一郎とか

松下幸之助とか

孫正義とか

長嶋茂雄とか

そういう  
スーパースターは  
お手本になりません……

なんでもできる

能力の高い人が

リーダーになるといふのは

それはごくごく

特殊なケース

スーパースターを  
お手本にすると  
上手いかわない！

努力してなれるような  
そんなモノじゃない！

そこに学ぶべきところは

あまれない！

リーダーは  
まわりの人たちが  
育てるもの

社長はなりたいと思えば

誰でもなれるけど

リーダーには

なりたいくてもなれない！

それはなぜか

リーダーは  
みんなが認めて  
育てるものだから

次世代のリーダーを  
みんなを選んで  
ちゃんと育てる

そこに組織の仕組みが  
あればなおよい

そんなやり方が  
できると  
一番良いのだけど...

若い人たちと  
地域をつくっていく  
社会を目指す

さて最後に…

きっと皆さんは  
地域において

後継者・担手

若いリーダー

をどうやったら

育てられるか

そういうことを  
気にしている人が  
多いと思います

今日の私の話は  
そこの方向でお話を  
したものです

若い人たちと  
向き合う場合の  
マインドセットとして

# ①知恵を借りる

今までのやり方では上手くいかない！  
新しいアイデアがどうしても必要

# ②一緒に考える

話を聞く！上手に聞く！なるほど

# ③預けて任せる

失敗してもOKな気持ちで任せる

# コミュニケーションの話

実は皆さん

コミュニケーション

あんまり得意じゃないです

コミュニケーションが  
なんだと思いますか？

しゃべりの上手さ？

プレゼン能力？

話の面白さ？

まったく違います！

コミュニケーション力

とは...

人の話を聞く力

みんな話を聞くのが  
上手じゃない

小さい頃から

相手の立場に立って話すとか

相手の立場に立って聞くとか

そう教えられて  
きませんでしたか？

ずっと教えられているから

なんとなく

できる気になっているけど

日本人で、できている人は  
あんまりほせん

相手の立場に立つ……

そんなの  
できるわけないじゃん

やったこともない

経験したこともない

人の立場になるなんて...

(まあ 想像することは  
できるかもしれませんが…)

そんな難しいことを  
考えずに...

形だけでも  
できるようになりましょう  
(笑)

簡単です。

①あはつする

②上手にうなづく

この2つだけ♪  
簡単でしょ？

①あはつする

②上手にうなずく

練習してみましようか？

# ①知恵を借りる

今までのやり方では上手くいかない！  
新しいアイデアがどうしても必要

# ②一緒に考える

話を聞く！上手に聞く！なるほど

# ③預けて任せる

失敗してもOKな気持ちで任せる